

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	国語表現		学年	単位数
国語	科目名	■必修 □選択	4年	2単位
使用教科書	国語表現		使用教室	
	50 大修館	701	HR教室	
学習の目標	言葉を使いこなす力、正確に伝える力、相手を説得する力、わかりやすく説明する力、議論して物事をまとめる力など、実社会を生きる上で必要とされる表現力を身につける。また、言葉の感覚を身につけ、語彙力を高めるための言葉遊びやパンフレット等の制作などの活動を通して、言語表現を楽しむ。			
評価	評価法	・授業態度・発問評価・提出課題(学習プリント[毎時間]・作文・制作物) ・スピーチ・定期考査などを基に総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	言葉に関する基本的なルールや正しい敬語の使い方を身につけている。また、手紙や電話、インターネットなどを様々なメディアをその用途に応じて使いこなす能力を身につけている。
		b	思考・判断・表現	自分の伝えたいことを文字や言葉で表現し、他者とコミュニケーションを取る能力を身につけている。自分の意見の理由・根拠を示しながら論理的に文章を書く力、自分をアピールする力を身につけている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	作文やスピーチ、ポスターなどの制作に積極的に取り組んで期限内に提出するとともに、授業中の発問に対する発表、授業プリントの提出など、日々の学習に対して真摯な取り組みができています。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1~10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	6	会話・議論・発表	・場にふさわしい敬語表現(丁寧語、尊敬語、謙譲語) ・相手や場面に応じた言葉遣い(ロールプレイ)	提出プリント 中間テスト 期末テスト	・ショートスピーチ、プレゼンテーション、自己PRの内容 中間テスト 期末テスト	提出プリント 授業中の発問に対する答え 各課題の取り組み状況
	5	6	会話・議論・発表	・意見を出し合う(司会者の役割、ブレインストーミング) ・ショートスピーチ(題:「自分のお気に入りの物」)			
	6	7	会話・議論・発表	・プレゼンテーション(テーマ決定、情報集め、構成の検討、資料作成、準備、リハーサルの流れで)			
	7	4	自己PRと面接	・自分を見つめる(これまでの人生を振り返る、長所と短所を分析する) ・自己PR(自己PRの原稿を書き、聞く人の印象に残るように工夫して発表する)			
2 学期	9	8	自己PRと面接	・志望動機を書く(志望先の情報収集、説得力ある志望理由) ・面接練習(質問を想定する、面接にふさわしい言葉遣い) ・将来の自分を考える(興味のある職業について調べる)	提出プリント 中間テスト	夢やなりたい職業のスピーチ内容	提出プリント 授業中の発問に対する答え
	10	7	自己PRと面接	・自己を見つめる(自分の夢やなりたい職業について調べ、発表する) ・グループディスカッション			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	11	8	読書の ひろば 表現を 楽しむ	・読書への誘い(宝探してみたいに本の世界へ入っていく) ・リーダーズシアター(羅生門、夕鶴) ・言葉で遊ぶ(回文、折句、しりとり)	↑続き  期末 テスト	↑続き  クロス ワード パズル の内容  期末 テスト	↑続き  各課題 の取り 組み 状況
	12	4	表現を 楽しむ	・言葉で遊ぶ(クロスワードパズル、伝統的な日本の言葉遊び) ・自分でクロスワードパズルを作る			
3 学期	1	7	表現を 楽しむ	・日常生活の正しい過ごし方(ユーモアトリセツを書こう、魅力的なポスターを作ろう) ・卒業作文(高校生活を振り返って思いを綴ろう)	提出プ リント  期末 テスト	卒業 作文の 内容  期末 テスト	提出プ リント
	2	8	表現を 楽しむ	・卒業作文(高校生活を振り返って思いを綴ろう)			各課題 の取り 組み 状況
	3	5	表現を 楽しむ	・卒業作文(高校生活を振り返って思いを綴ろう)			授業中 の発問 に対する 答え

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

国語表現ではテストも実施しますが、それぞれの課題(作文・論文やレポート課題、スピーチ等)の提出・取り組み状況を重視した評価になります。課題が提出されない場合は大幅減点、もしくは欠点になります。欠席をなくし、確実に提出してください。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	政治・経済		学年	単位数
公民	科目名	■必修 □選択	4年	2単位
使用教科書	最新政治・経済		使用教室	
	7 実教	703	HR教室	
学習の目標	現代社会の諸課題の解決に向けて、社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、事実を基に多面的・多角的に考察し判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。			
評価	評価法	・授業態度・発問評価・提出課題・小テスト・定期考査などを基に総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
		b	思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
		c	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	7	第1編 現代日本の政治 1章 現代国家と民主政治 2章	政治と法の意義と機能, 日本国憲法, 基本的人権の保障と法の支配, 権利と義務との関係, 議会制民主主義, 地方自治について	・確認問題	・演習問題	・授業の取り組み状況
	5	8	日本国憲法と基本的人権		・提出プリント ・中間考査		

(裏に続く)

1 学期	6	8	3章 日本の政治制度 と政治参加	政党政治や選挙制度, 望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題</li> <li>・提出プリント</li> <li>・期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題</li> <li>・期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み状況</li> </ul>
	7	5	第2編 現代日本の経済 1章 現代の経済社会	経済活動と市場, 経済主体と経済循環, 国民経済の大きさと経済成長, 物価と景気変動, 財政の働きと仕組み及び租税などの意義, 金融の働きと仕組みについて			
2 学期	9	8	2章 現代の日本経済 と福祉の向上	経済活動と福祉の向上との関連について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題</li> <li>・提出プリント</li> <li>・中間考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題</li> <li>・中間考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み状況</li> </ul>
	10	8	第3編 現代日本における 諸課題の探究 日本経済のあゆ みとこれから	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化, 地域社会の自立と政府, 多様な働き方・生き方を可能にする社会, 産業構造の変化と起業, 歳入・歳出両面での財政健全化, 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現, 防災と安全・安心な社会の実現などについて			
	11	8	第1編 現代の国際政治	国際社会の変遷, 人権, 国家主権, 領土(領海, 領空を含む)などに関する国際法の意義, 国際連合をはじめとする国際機構の役割, 我が国の安全保障と防衛, 国際貢献について			
	12	4	第2編 現代の国際政治	貿易の現状と意義, 為替相場の変動, 国民経済と国際収支, 国際協調の必要性や国際経済機関の役割について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み状況</li> </ul>
3 学期	1	6	第3編 国際社会におけ る諸課題の探究	グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容, 地球環境と資源・エネルギー問題, 国際経済格差の是正と国際協力, イノベーションと成長市場, 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組, 持続可能な国際社会づくりなどについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題</li> <li>・提出プリント</li> <li>・学年末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題</li> <li>・学年末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み状況</li> </ul>
	2						
	3						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

社会に参画する際に必要になる知識や現状を理解し、実際の社会の課題と向き合う力を身につけることを目指す教科です。日常の社会の動きに興味をもってください。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	数学A		学年	単位数
数学	■必修 □選択		4年	2単位
使用教科書	新 高校の数学A		使用教室	
	104 数研	716	HR教室	
学習の目標	場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			
評価	評価法	定期考査、提出プリントの内容(毎時)、授業での取り組む姿勢、復習問題・チャレンジ問題、振り返りシートで評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程から考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を示している。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	7	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1. 集合と要素 2. 集合の要素の個数 3. 場合の数	共通部分、和集合、空集合、全体集合、補集合など集合に関する用語を理解し、それらを求めることができる。 ベン図や公式を利用することで、集合の要素の個数を数学的に数えようとする。	復習問題 提出プリント	チャレンジ問題	授業の発表と取組状況
	5月	8	4. 順列	樹形図を用いたり順序だてて並べたりすることで、場合の数をもれなく重複なく数えることができる。	中間考査	中間考査	振り返り
	6月	8	5. 組合せ	簡単な場合の数を、順列の考えを利用して求めることができる。 となりあう場合の順列のような、特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。	期末考査	期末考査	課題学習での考察
	7月	5	課題学習	簡単な場合の数を、組合せの考えを利用して求めることができる。 席替えの総数を考えよう			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	9月	8	2節 確率 1. 事象と確率 2. いろいろな事象の確率	確率の定義を理解し、簡単な確率を求めることができる。 表や組合せの考えを活用して、確率を求めることができる。	復習問題 提出プリント	チャレンジ問題	授業の発表と取組状況
	10月	8	3. 独立な試行とその確率	独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	中間 考査	中間 考査	振り返り
	11月	8	4. 反復試行とその確率 6. 期待値	反復試行の意味を理解し、確率の求め方を組合せの考えと関連付けて考察することができる。 損得判断をするときに、期待値を判断材料の1つとして利用することができる。	期末 考査	期末 考査	
	12月	4	課題学習	宝くじの期待値を求めてみよう			
3 学期	1月	6	3章 数学と人間の活動 1. 約数と倍数 5. 数学とゲーム・パズル	素因数分解を利用した最大公約数や最小公倍数の求め方を理解し、説明することができる。  ゲームやパズルの中には、数学的な考えが生かされているものがあることを理解できる。	復習問題 提出プリント	チャレンジ問題	授業の発表と取組状況
	2月				学年 末 考査	学年 末 考査	振り返り
	3月						

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

確率やゲーム等、身近な数学を取り上げていきます。積極的に授業に参加しましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	物理基礎		学年	単位数
理科	科目名	■必修 □選択	4年	2単位
使用教科書	高校物理基礎		使用教室	
	7 実教	704	HR教室	
学習の目標	運動の法則をはじめとする力学や熱、電気、波に関する基本的な法則を学ぶ。また、これらを学ぶことにより、自然現象の中にある規則性を理解し、多くの現象について考える。			
評価	評価法	主体的に物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	科学的に探究する方法を理解するとともに、身近な物理の探究に必要な基本操作を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	身近な物理の探究に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考え方を的確に表現している。
		c	主体的に学習に取り組む態度	身近な物理の探究に関する事物・現象に主体的に関わり、それらに対する気付きからさらに探究しようとする態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4月	6	第1章 さまざまな運動	1節 平面内の運動と剛体のつり合い 1 運動の表し方 2 落体の運動 3 剛体にはたらく力	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	5月	10	第1章 さまざまな運動	2節 運動量 1 運動量と力積 2 運動量の保存 3 衝突とエネルギー 3節 円運動と単振動 1 等速円運動 2 慣性力 3 単振動			
	6・7月	10	第1章 さまざまな運動	4節 万有引力 1 ケプラーの法則 2 万有引力 3 万有引力による位置エネルギー 5節 気体分子の運動 1 気体の状態方程式 2 気体分子の運動 3 気体の内部エネルギー 4 気体の状態変化			
2 学期	9月	10	第2章 波	3節 光 1 光の性質 2 レンズと球面鏡 3 回折と干渉	定期テスト 授業中の発問	演習問題 定期テスト	授業プリント内の振り返り 定期テスト
	10月	10					

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2 学期	1 1・ 1 2月	16	3章 電気と 磁気	2節 電流 1 電流と抵抗 2 直流回路  3節 磁場と電流 1 磁場 2 電流が磁場から受ける力 3 ローレンツ力	定期テ スト 授業中 の発問	演習問 題 定期テ スト	授業プ リント 内の 振り返 り 定期テ スト
			3章 電気と 磁気	4節 電磁誘導と電磁波 1 電磁誘導の法則 2 自己誘導と相互誘導 3 交流 4 電磁波			
3 学期	1 月	8	3章 電気と 磁気		定期テ スト 授業中 の発問	演習問 題 定期テ スト	授業プ リント 内の 振り返 り 定期テ スト
	1 ・ 2 月	10	4章 原子	1節 電子と光 1 電子 2 光の粒子性 3 電子の波動性			
	3 月	2		現代物理学の先端研究や技術革新などについて 理解させる。			

担当者からのメッセージ(学習方法など)  
 物理基礎でも単元ごとに中学校の復習内容も入れることがあります。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	英語コミュニケーションⅡ		学年	単位数
外国語	■必修 □選択		4年	2単位
使用教科書	COMET English Communication Ⅱ		使用教室	
	104 数研	717	HR教室	
学習の目標	<p>1. 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>2. 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>3. 日常的な話題について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。</p> <p>4. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。</p> <p>5. 日常的な話題について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。</p>			
評価	評価法	定期考査、授業プリント、授業態度、発表内容、パフォーマンステストにより評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	・英語の特徴や決まりに関する事項を理解している。 ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、学習している話題について理解したり伝えたりする技能を身につけている。
		b	思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて学習している話題について、必要な内容を読みとったり聞きとったりして、その要点を捉え、書いたり話したりすることで伝えあっている。
		c	主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自律的に学習活動に取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4 月	5	Lesson8	・材料: 小さな工夫で人を動かす ・文法: 関係代名詞what ・目標: 環境のためにできることを英語で述べる。	提出 プリント	授業の 発表内 容	授業 の取り 組み
	5 月	8	Lesson8	・材料: 小さな工夫で人を動かす ・文法: 関係代名詞what ・目標: 環境のためにできることを英語で述べる。	中間 考査	中間考 査	提出 プリン ト

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	6 月	9	Lesson9	・材料:点字ブロックの父 ・文法:関係副詞 ・目標:誰もが暮らしやすい社会について英語で述べる	提出 プリント	授業の 発表内 容  期末考 査	授業 の取り 組み  提出 プリン ト
	7 月	3	Lesson9	・材料:点字ブロックの父 ・文法:関係副詞 ・目標:誰もが暮らしやすい社会について英語で述べる	期 末 考 査		
2 学期	9 月	7	Lesson10	・材料:そのサービスは必要ですか ・文法:使役動詞 ・目標:必要・不必要だと思うサービスを英語で述べる。	提出 プリン ト	授業の 発表内 容  中間考 査	授業 の取り 組み  提出 プリン ト
	10 月	8	Lesson10	・材料:そのサービスは必要ですか ・文法:使役動詞 ・目標:必要・不必要だと思うサービスを英語で述べる。	中 間 考 査		
	11 月	8	Lesson11	・材料:バンクーバー朝日 ・文法:知覚動詞 ・目標:人権の問題について英語で述べる。	提出 プリン ト	授業の 発表内 容  期末考 査	授業 の取り 組み  提出 プリン ト
	12 月	3	Lesson11	・材料:バンクーバー朝日 ・文法:知覚動詞 ・目標:人権の問題について英語で述べる。	期 末 考 査		
3 学期	1 月	3	Activity1~3	・材料:論理パズル、レポートを読む、情報検索読み ・文法:肯定否定、比較表現、数字の表現 ・目標:パズルを楽しむ、概要をまとめる、欲しいものを注文する	提出 プリン ト	授業の 発表内 容  学年末 考査	授業 の取り 組み  提出 プリン ト
	2 月				学 年 末 考 査		
	3 月						

**担当者からのメッセージ(学習方法など)**

3年生の続きになります。授業で毎回配るプリントを完成して提出してください。考査はすべて学習したことから出題します。授業には積極的に参加してください。積極的でない行為は禁止です。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	体育		学年	単位数
体育	科目名	■必修 □選択	4年	2単位
使用教科書	現代高等保健体育		使用教室	
	50 大修館	701	体育館など	
学習の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図ることができるようになる。			
評価	評価法	自己の体調を考えながら、積極的に授業に参加している様子などを観察し、技能テスト・理解度テスト、学習ノートや振り返りシートを加味して総合評価します。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。
		b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
		c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持ち、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	2	体育理論	豊かなスポーツライフの設計	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観察・ 振り返り シート
	4		体づくり運動	簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽しくできる手軽な運動を行う。また、体の柔らかさや力強い動き、動きを持続する運動などを考え、仲間とともに運動できる。			
	5	8	選択1(2種目中1種目選択)	短距離走や長距離走の記録の向上をめざし、仲間とともに協力して、自己の課題を発見し、解決のために工夫して練習できる。または、鉄棒の基本技ができる			
	6 7 月	13	選択授業2(3種目中1種目選択)	ネット型球技を選択し、2年次に身に付けた技能をさらに向上させるとともに、空いたコートに打ち返すことができるようになる。練習やゲームを通して、仲間と協力しながら安全に学習できる。(バドミントン・卓球・バレーボール)			

(裏に続く)

時	学習項目・	学習内容	評価方法
---	-------	------	------

期	月	回数	単元	学習目標 (言語材料・単元の目標)	a	b	c
2 学期	9 月	2 4	体育理論 体づくり運 動	豊かなスポーツライフの設計 簡単な体ほぐしの運動として、仲間と楽 しくできる手軽な運動を行う。	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観 察・ 振 返 り シ ー ト
		10 月	7	選択授業2 (3種目中1 種目選択)			
	11 月	11	選択授業3 (2種目中1 種目選択)	ゴール型球技を選択し、2年次に身に付 けた技能をさらに向上させるとともに、 味方の動きに合わせてパスが出せるよ うになる。練習やゲームを通して、仲間 と協力しながら安全に学習できる。(バ スケットボール・フットサル)			
		12 月	4				
3 学期	1 月	6	選択授業3 (2種目中1 種目選択)	2学期選択3を継続	技能 テスト・ 理解度 テスト・ 観察	学習 ノート 観察	観 察・ 振 返 り シ ー ト
		2 月					
	3 月						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

安全に注意して、みんなで協力し合いながら、学習しましょう。

指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	科目名		課題研究	学年	単位数
工業			■必修 □選択	4年	3単位
使用教科書	実習 自主編成プリント			使用教室	
				機械科 実習棟	
学習の目標	機械に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習をとおして専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育む。				
評価	評価法	準備・後始末・取り組み姿勢・協力性・技術面・工夫箇所などを総合的に判断をして評価している。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技術	機械分野に関する基礎的な技能・技術を身につけ、安全や環境に配慮し、実際の仕事を合理的に計画する	
		b	思考・判断・表現	機械に関する諸問題の適切な解決を目指し、自ら考え、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫をすると共に適切に処理し、その効果を的確に表現する能力を身につける。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械に関する基礎的な技術に関心を持ち、改善や向上を目指して意欲的に取り組むとともに社会発展を図る創造的・実践的な態度を身につける。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1	4	9	・旋盤	概要説明・旋盤の基本操作	レポートの作成及び提出状況	課題への取り組み姿勢と工夫	作品の出来栄や整理整頓・後始末
	5		・旋盤	課題作品「ペン立ての製作」図面の作成			
	6	27	・旋盤	課題作品「ペン立ての製作1」			
	7		・旋盤	課題作品「ペン立ての製作2」			

(裏に続く)

期	月	時数	学習項目・ 単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
2	9	39	・MC実習	・マシニングセンタのプログラムの基礎について	レポートの作成及び提出状況	課題への取り組み姿勢と工夫	作品の出来栄えや整理整頓
	10		・MC実習	図面の作成→プログラミング→軌跡確認→切削加工			
	11		・MC実習	仕上げ作業			
3	12	30	・CAD実習	2次元CADの基礎 ・作図にあたっての基礎 (線分、多角形、円など) ・表題欄の作成    ・文字入力    ・印刷	レポートの作成及び提出状況	課題への取り組み姿勢	作品の完成度やバランス
	1		・CAD実習	2次元CADの応用 ・第三角法による投影図    ・寸法入力 ・フランジ、パッキンの作図、断面図の作成など 3次元CAD(パーツ)の基礎 ・立体図作成の基礎(等角図の作成など)			
	2		・CAD実習	3次元CADの応用 ・機械部品の作成 (ボルト、ナット、フランジ、ねじなど) ・各機械部品の組み立て(アセンブリ)			
				※2班編成を輪番			

担当者からのメッセージ(学習方法など)

各班に分かれて、1パート3時間×3回として3パートを年間3回ローテーションして、前期・中期・後期で学習する。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	機械設計			学年	単位数
工業	科目名	■必修 □選択		4年	2単位
使用教科書	機械設計1・2			使用教室	
	7 実教	工業	710/711	HR教室	
学習の目標	機械設計に関する基礎的な知識と技術を習得させ、機械・器具などを創造的、合理的に設計する能力と態度を育てる。				
評価	評価法	定期考査、提出物、授業中の取り組み姿勢などを総合的に評価する。			
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	機械設計に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、実際に設計する際に必要となる、計画・構想・実践までを適切に行う力を養う。	
		b	思考・判断・表現	機械設計に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識を活用して創意工夫し、その成果を的確に表現する力を養う。	
		c	主体的に学習に取り組む態度	機械設計に関する原理、理論および計算の基礎的・基本的な内容を重視し、現実的な設計技術に関心を持ち、創造的に機械を設計する能力と意欲的に取り組む実践的な態度を身につける。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法		
					a	b	c
1 学期	4	7	第5章 ねじ	1. ねじの用途と種類 2. ねじに働く力と強さ	ノ ー ト 考 査 提 出	発 展 課 題 考 査 提 出 ( )	取 り 組 み 姿 勢
	5	10	第6章 軸・軸接手	1. 軸 2. キー・スプライン 3. 軸接手			
	6	9	第7章 軸受・潤滑	1. 軸受の種類 2. 滑り軸受 3. 転がり軸受			
	7	6		4. 潤滑			
2 学期	9	9	第8章 リンク・カム	1. 機械の運動 2. リンク機構 3. カム機構	ノ ー ト 考 査 提 出	発 展 課 題 考 査 提 出 ( )	取 り 組 み 姿 勢
	10	9	第9章 歯車	4. 間欠運動機構 1. 歯車の種類 2. 回転運動の伝達			
	11	9		3. 平歯車の基礎 4. 平歯車の設計 5. その他の歯車			
	12	4		6. 歯車電動装置			
3 学期	1	12	第10章 ベルト・チェーン	1. ベルトによる伝動 2. チェーンによる伝動	ノ ー ト 考 査 提 出	発 展 課 題 考 査 提 出 ( )	取 り 組 み 姿 勢
	2						
	3						

(裏に続く)

担当者からのメッセージ(学習方法など)

日常生活で使われている様々な「機械の装置」は、企画・設計から生産まで多くの人が関わり、多くの資源やエネルギーを使います。また、各製造工程の環境は、技術の高度化、情報化、資源の再利用化やグローバル化など日々変化しています。機械設計の学習にあたっては、これらのことを踏まえた設計が大切であることを理解し、機械設計に必要な専門知識の基礎を中心に学びます。

## 指導と評価の年間計画(シラバス)

教科名	自動車工学		学年	単位数
工業	科目名	■必修 □選択	4年	2単位
使用教科書	自動車工学1、2		使用教室	
	7 実教	712/713	HR教室	
学習の目標	<p>1. 自動車および自動車を構成する各装置の構造と機能について、基礎・基本を理解し、同時に、自動車が多種多様な装置や部品を有機的に結合させた装置の総合体であることを理解し、また、実際に活用することができる。</p> <p>2. 自動車の普及に伴う経済性、安全性、環境などにかかわることがらを社会的な問題としてとらえ、大気汚染・振動・騒音など環境に与える各種の影響や交通災害について理解し、環境保全や安全確保、省エネルギーなどの問題に積極的に取り組む能力と態度が育成できる。</p> <p>3. 自動車の原理について、自動車の各装置の基本的なしくみと働きを理解できるとともに、各部品に働く力について理解でき、簡単な計算ができる。</p>			
評価	評価法	定期考査、提出物、課題、授業中の取り組み姿勢等より総合的に評価する。		
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	自動車工学に関する基礎的・基本的な知識・技術を身に着け、現代の自動車の発展、役割、影響等について理解している。
		b	思考・判断・表現	自動車に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的な知識を活用して創意工夫し、その成果を的確に表現する。
		c	主体的に学習に取り組む態度	自動車に関する知識や技術等の習得に向けて、意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする態度を身に着けている。
<p>上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～10の10段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。</p>				

期	月	時数	学習項目・単元	学習内容 (言語材料・単元の目標)	評価方法			
					a	b	c	
1 学期	4	5	第1章 人と自動車	自動車は、社会の活動と深いかわりがあり、人々の願望を実現させる機械として発達し、大量生産方式により広く普及し、生活を豊かなものにしてきたことを理解させる。あわせて、自動車は、環境保全・交通災害防止・資源保護など社会との調和をとらなくてはならない存在であることも理解させる。	プ 考 リ 査 ン ト ・ 課 題 提 出	発 展 課 題 提 出 )	取 り 組 み 姿 勢	
	5		第2章 自動車の原理	どのような原理が応用され、どのようなしくみで動くのかなど自動車にかかわる基礎知識を学び、自動車を走らせる動力の発生と伝達や、自動車を操作する仕組み等について理解させる。				
	6		第3章 自動車用エンジン	自動車用エンジンとして用いられている各種のエンジンについて、そのしくみや働き、さらにそれらの性能について理解させるとともに、モータを動力源としている電気自動車、水素を燃料とする燃料電池車についてもそれらがどのようなものか理解させる。				
	7		4					
2 学期	9	8	第4・5章 動力伝達・懸架・走行・ステアリング装置	クラッチやトランスミッション等の動力伝達装置の各要素のしくみと働きについて理解させる。自動車が自由に安定した走行をするために必要な走行装置・懸架装置とかじ取り装置の構造と働きについて理解させる。	プ 考 リ 査 ン ト ・ 課 題 提 出	発 展 課 題 提 出 )	取 り 組 み 姿 勢	
	10		第6・7章 ブレーキ装置・シャシ・ボデー	自動車減速・停止させるために、また、停車中の車が自然に動き出さないようにするためや、あらゆる路面状態において安定した制動を行うための装置等「止まる」のしくみについて理解させる。シャシとボデーの形式や構造および外装部品、ぎ装品等について理解させる。				
	11		9	第8・9章 走行と性能・自動車の電気・電子技術				自動車の性能にはどのようなものがあり、走行とどのようにかわりあっているかについて理解させる。自動車が性能を十分に発揮し安全に走行するために重要な働きをしている電気装置のしくみや働き、電子技術について理解させる。
	12		3					

(裏に続く)

